

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/12/20号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

12月FOMC終了でマーケットの焦点はインフレへ

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



毎週なんらかの注目のイベントがありますが、前週はおそらく今年最後で最大の注目イベントであった12月のFOMCでした。その結果はほぼマーケットの予想の範囲内で、テーパリングの加速、来年前半の金利上げという結果となりました。FOMCが終わり政策金利発表になったのが、東京時間木曜日の朝4時。その瞬間のファーストリアクションは売り、ゴールドは直前の1760ドル台から1756ドルまで下落しましたが、しかし、そこから上昇、4時半から始まった議長会見でもなんら新たなサプライズは無く、ゴールドは上昇を続けました。この流れは金曜日も続き、1800ドルを超えて一時1814ドルまで上昇、そこから利食いの売りに押されて、一週間の終わりは1798ドルとなりました。「金利上げ」の予想により頭を押さえられていたゴールドですが、このFOMCを契機にマーケットの焦点は「金利」から「インフレ」へと移行したと考えてよいでしょう。ずっとインフレを一時的としていたFRBも、その誤りを認めましたが、そのためにインフレの進行に対して後手に回っているのは否めません。インフレは40年ぶりのレベルにまで上昇しており、このペースでインフレが進むことになればインフレヘッジとしてのゴールドの役割が再度見直されることになるでしょう。また株式市場のリスクオフセンチメント、そして現在もはや77カ国での感染が報告されている、これまでの変異株とはけた違いのスピードで拡大しているオミクロン株による経済先行き不安、（世界であまりに過小評価されているのではないかと思います。）、そしてじわじわと進んでいる中国・台湾、ロシア・ウクライナに関する地政学リスク、とゴールドにとっては強材料ばかりが目立つ状況です。2022年は堅調なスタートになるのではないのでしょうか。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (10) 取引所取引2

基本的に先物市場は反対売買で最終的に決済され、現物が実際に受け渡しされることは、可能ですが、極希だと言っていいでしょう。そのため、ヘッジファンドがあまりに大きく買い越しポジションを持っていれば、それはいつか利食いもしくは損切りの反対売買、つまり売りが出てくるということになります。彼らを買うことはマーケットには当然強材料ですが、そのポジションを閉じるときにはそれだけの売りとしてマーケットに出てくることは重要な先物市場の一面であると言えます。ゴールドを取引しているComex以外の主な取引所は、SGE (Shanghai Gold Exchange : 上海黄金交易所)、SHFE (Shanghai Futures Exchange : 上海期貨交易所)、OSE (Osaka Exchange : 大阪取引所、2019年にTocomから移管) が上げられます。このうちSGEは純粋な先物取引ではなく現物の取引所であり、中国の現物ゴールドの価格は基本的にこのSGEで決められます。売る側 (ゴールドを輸入する銀行や国内の金鉱山会社) も買う側 (宝飾品メーカーや貴金属商など) もSGEを通じて売り買いすることにより、増徴税 (日本の消費税のような付加価値税) を免除されるという大きなメリットがあるからです。

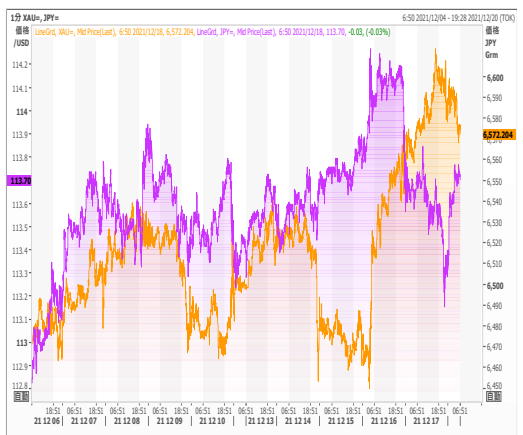
世界の先物市場のゴールド取引の約80%がComexで取引されます。その現在のマーケットでのゴールドの価格はComexが決めていると言っても言い過ぎではありません。一体どうやってゴールド価格が決まっているのか、に関しては次回から詳しく解説していく予定ですが、この「先物市場」そしてその中でも現在はCMEグループに属する「Comex」が最も中心にある状況にあります。極端に言えば、ほかのマーケットはその時点のComexの価格をベースにして価格を計算して出しているというのが現在のゴールドのマーケットです。ComexがGlobexというシステムの上でほぼ24時間取引をしており、トレーダーが他のマーケットとの間の裁定取引を行っていることで最終的な「価格発見」の場所はComexになっているのです。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

